

		赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報	
		発行人/会長 吉岡博之	
		編集人/小野 章	
		〒625-0062 舞鶴市森973番地の1	
		FAX/0773-63-9764	
		E-mail brick7388@yahoo.co.jp	
赤煉瓦倶楽部舞鶴			
会報118号 令和4年(2022年)4月15日			
「赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ		http://www.redbrick.jp/	

目次

1. 舞鶴赤れんがパークの今後について	5. 三代の正教匠建築家
2. 令和4年度赤煉瓦倶楽部舞鶴の総会のご案内	6. まいづる海軍がっこうぐらし! (第2回)
3. 海軍時代の舞鶴古写真展(その2)のご案内	7. 写真に寄せて
4. 図書のご紹介	8. 会報へ投稿のお願い
	編集後記

1. 舞鶴赤れんがパークの今後について	石原雅章(理事)
---------------------	----------

現在舞鶴市では「赤れんが周辺等まちづくり事業」を進めており、昨年都市公園法の公募設置管理制度を活用して、赤れんがパーク施設・周辺を管理運営する民間事業者を募集し、市内のアパレル会社「株式会社ウッディーハウス」に決定しました。同社の計画では、「舞鶴の本物が集う」をコンセプトに、「休む」「遊ぶ」「買う」「食べる」を体験できる施設へと順次整備。2号棟と3号棟の間には全天候型オープンテラスや海側芝生広場に海の幸を中心とした食事ができるトレーラーハウスを2023年春にオープンし、5号棟に

はクラフトビールのビール醸造所を計画する。そして、文庫山学園跡には、サウナを備えたアパレルとアウトドアを融合した店舗を2024年にオープンさせるそうです。

また、市では未利用の国所有の赤れんが倉庫3棟を、赤れんがパークの玄関口としての役割や、近代の歴史的遺産の見学の核となる展示施設として整備していくため、2022年度に基本計画を作成します。今後の赤れんがパークの充実に期待したいところです



赤れんがパーク芝生広場



国所有の赤れんが倉庫3棟

2. 令和4年度赤煉瓦倶楽部舞鶴総会のご案内	吉岡博之(会長)
------------------------	----------

赤煉瓦倶楽部舞鶴の令和4年度総会を下記のとおり開催します。つきましては、ご出席の有無を同封のハガキにより5月12日までに必着でお知らせ下さるようお願いいたします。

記

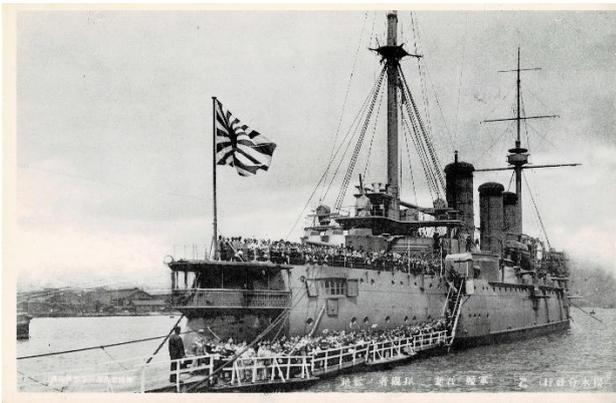
日時：5月15日(日)午後2時から

場所：舞鶴市字森973-1「アートスペース973」

3. 「海軍時代の舞鶴古写真展（その2）～舞鶴海軍工廠と造船～」（ご案内） 馬場英男・大橋健二（両理事）

「海軍時代の舞鶴古写真展」の第2弾として、下記のとおり開催しますのでご案内します。

- 1 テーマ ～舞鶴海軍工廠と造船～
- 2 会期 令和4年5月6日（金）～12日（火）10:00～17:00
- 3 会場 「アートスペース973」府道白鳥通り大森神社参道入り口
- 4 内容 明治34年10月の舞鶴鎮守府設置と前後して「造船廠」が置かれ、明治36年11月に「舞鶴海軍工廠」に組織改編され、駆逐艦建造の中心を担いました。大正12年4月にワシントン軍縮条約で一時期工作部に格下げとなりましたが、昭和11年7月に海軍工廠に復帰し敗戦まで駆逐艦・水雷艇などを建造しました。今回の展示は、海軍工廠のドックでの建造、艦船進水式、舞鶴ゆかりの艦船、建物等の古写真、絵葉書、絵図等を展示します。



軍艦吾妻 拝観記念（絵葉書）



明治37-8年日露戦役第1回海軍記念日（絵葉書）

4. 図書のご紹介（2冊）

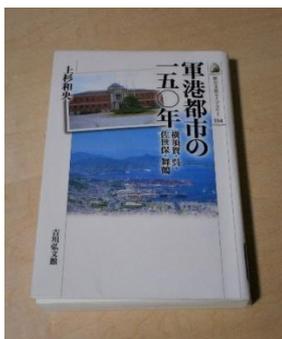
事務局

◎「軍港都市の150年」上杉和央著 吉川弘文館刊 288頁

舞鶴市を含む4旧軍港市の発展と戦後の変遷について解説しています。舞鶴について興味深いのは、吉田初三郎描く「舞鶴図絵」の章です。そして最後の2章では、舞鶴の自主的研究グループの「赤れんがへの気づき」を経て、まいづる建築探偵団による調査、赤煉瓦ネットワークの形成と舞鶴市でのシンポジウム、赤れんが博物館・市政記念館の開設に進む過程を紹介しています。市立図書館で借りられます。

◎ 赤煉瓦倶楽部舞鶴会報（第1号～115号）合本

当倶楽部の会報の合本です。倶楽部の結成から現在に至るまでの歩みが当時の雰囲気を持って思い出されます。東西の市立図書館に置かれる予定ですが、館内専用の図書となります。書架にない場合は受付へお尋ね下さい。



前号で国内のハリストス正教会の建築について記しましたが、その多くを設計した河村伊蔵とその次男・内井進は共に正教徒の信徒であり、更に進の長男・内井昭蔵(1933~2002)は日本の戦後建築史を代表する建築家です。実は偶々2010年に企画展「内井昭蔵の思想と建築」(於:内井設計の世田谷美術館)を参観した際、彼の作品の背後にロシアの教会を思わせる雰囲気があるのが気になり図録の解説を読むと、祖父の代からの正教徒の建築家であったことが分かりました。

筆者は、通った小学校の向かいに正教会があったせいか、正教会建築に関心があり、何冊かロシアの教会の写真集を所蔵していますが、内井作品に正教会のデザインの匂いを感じ取ったのもそのせいでしょうか。

先日、フリマで内井昭蔵の著書『ロシアビザンチン〜黄金の輪を訪ねて』(丸善刊)を入手しました。これは内井が自身と仕事にゆかり深いロシア正教会建築の集中する古都群(Golden Ring)を訪問した記録です。届いた本を開いて驚きました。表紙裏に内井昭蔵自身の署名がありました。親しい人に献本していたらしい。

内井は、この本の中でウクライナのキエフの教会建築群にも言及、その美を称賛しています。今キエフは戦いの地になっており、敬虔な正教徒を自認するロシア大統領がユネスコ世界遺産を含むこれらの壮麗な建築群をロシア軍に破壊させる暴挙に及ばないように祈るばかりです。(写真は内井の設計した建築3点)



菫谷虹児記念館 rurubu.jp



浦添市美術館 rhs-japan.org

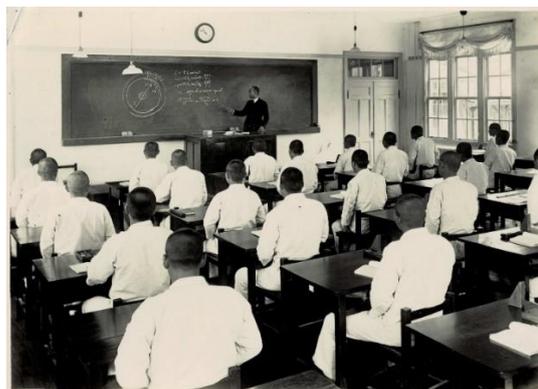


国際日本文化研究センター図書館 nihu.jp

舞鶴には軍港時代、新人の海軍軍人を養成する機関が二つありました。セーラー服を着た新人水兵を養成する「舞鶴海兵団」と機関科士官を養成する「海軍機関学校」です。「まいづる海軍がっこうぐらし!」ではその当時の新人軍人達の生活を紹介します。

○連載第2回は海軍機関学校での授業風景

彼ら生徒は、軍人としての精神教育や体育以外にもエンジンや推進機関の整備設計、熱力学や物理学に機械工学、化学に歴史、外国語等々多くの学識技能の修得が求められていました。





100年前の我が家は木材業が生業でした。

海軍舞鶴鎮守府が開庁され数年後にこの仕事を始めたと聞いています。この鎮守府の発展と共に東舞鶴の町家造りの普請に精を出していたことでしょう。木材は丹波の国領から運んでいたようです。

舞鶴鎮守府開庁 120 年にあたり当時を思い起こさせるような一枚を撮れないか、ただの観光写真ではなく昔と現在を組み合わせて、いわば映画のワンシーンのようなイメージを狙いました。

それには雨の夜がいいだろう、ライトに照らされるレンガに傘の男が帰宅する後ろ姿に時代の哀愁を連想させることは出来ないか、そう思って撮ったワンカットです。

因みに、私の代で業務轉換して 30 年経過しており、昨年に次の代へと渡しました。

8. 会報へ投稿のお願い

当倶楽部会報を日頃ご愛読いただき有難うございます。今後とも紙面をより楽しく、また充実いたしたく、今後会員の皆様に随時投稿をお願いしてまいりたいと存じます。掲載の際は謝礼として図書券(千円)を差し上げます。

編集後記

近くに 5 軒家が建ったが、全て黒灰色である。又、ある黒い家に黒の車が 3 台収まっていた。先日開館した大阪中之島美術館も漆黒の箱である。一方那覇市がテレビに映ったが、一面白色であった。日本全体が亜熱帯化する中、なぜこうも黒い建物が増えるのか？疑問である。最近理解できないことが多い。ロシアがなぜ兄弟民族の国に突然侵攻したのかも分かりにくい。ロシア語でプーチは道であり、ラスプーチツァは泥濘路、ラスプーチエは歧路である。報道画面を見てロシアの頭領の名が由来するこれらの語を考える。今世界もかの国も泥にはまり分岐点の前に居るのかもしれない。

本会の目的(要旨)：赤煉瓦を活かしたまちづくり活動、赤煉瓦ネットワーク交流と他市のまちづくり支援など。

会員の資格：会費納入者 年会費(個人 1,000 円、団体 5,000 円)。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付等 振込先：①ゆうちょ銀行 四四ハ店(ヨンヨンハチ店) 普通 3679505 口座名義 アカレンガクラブマイルル
又は ②京都北都信用金庫 舞鶴中央支店 普通 口座番号 0686767 口座名義 アカレンガクラブマイルル